

2009 年 6 月 7 日（日）に開催された第 46 回研究例会では、2009 年に IAML 日本支部が 30 周年迎えるのを機に、支部の創設経緯、IAML の年次大会、総会への参加、IAML の日本語名、音楽図書館協議会との関連について 3 人の会員から感想や思い出を中心にお話をいただき、40 周年に向けた支部の在り方についてフロアも交えて自由な意見交換を行った。

以下は 3 人の会員のお話の要旨をまとめたものである。

1. 村井範子会員（フェリス女学院大学） 【IAML との関わり】

1960 年初冬、アメリカ留学の帰りにイギリスに立ち寄り、ケンブリッジ大学の音楽部の図書館員のヴラスト氏に西洋音楽の研究をはるか彼方の日本に帰って研究する場合にどうしたらよいかについて相談した。そのときに IAML (International Association of Music Libraries) について紹介され、参加を勧められた。留学によってアメリカでもヨーロッパでも図書館活動が活発であることに驚いた。また、音楽では文献や資料や楽譜が大切であることを痛感した。帰国してから東京芸術大学での恩師である遠山一行先生に IAML のことをお話しして遠山音楽財団附属図書館が団体会員、先生や私は個人会員となった。以後、機関誌の FONTES ARTIS MUSICAE の読者となり、ようやく私は 1972 年のボローニャの年次大会に出席した。1979 年に日本支部が創設され、1980 年には遠山先生（支部長）たちとケンブリッジ大会に参加した。私が IAML を知って会員となってから 12 年後に初めて大会に参加し、19 年後に日本支部が創設されたことになる。なお、IAML はユネスコの支援で 1951 年にパリで創設され、初代会長はフェドロフ氏であった。IAML には国際音楽学会の資料面での土台を作成するという重要な役割がある。

1972 年のボローニャ大会には論文作成のためにイタリアに留学中の岸本宏子さんも参加した。国際大会で最初に会ったのはバリ・ブルック氏である。他の参加者も暖かく、親切で、協力精神に富み、毎年参加したいと望むようになった。その後、ロンドン、モントリオール、マインツ、リスボン、ザルツブルクの大会に参加した。IAML はライブラリアン中心の会議であるが、会議への出席が大勉強になった。そして、西洋の文化や西洋音楽の背景を知り、様々な角度からの音楽研究に接することができた。音楽史や音楽学をあちこちの大学で教えていた私にとって IAML の会議参加は西洋音楽史研究上で大きな力となった。また、そこで活躍している人たちが本当にフレンドリーで協力的であった。



【日本支部創設の経緯】

IAML の大会に参加していると、フランクフルト放送局文書館館長のハラルド・ヘックマン氏から IAML 日本支部の創設を熱心に勧められた。その情熱に打たれ、遠山音楽図書館長の遠山先生と相談し、創設準備を進めた。度重なるヘックマン氏の勧めを受けて、国立音楽大学の海老沢〔敏〕氏、松下〔鈞〕氏、武蔵野音楽大学の古荘〔隆保〕氏、上野学園大学の福島和夫氏などの方々と相談した。ヘックマン氏が会長のときに日本支部が創設されたが、彼以外にも RILM や音楽図像学の RiDiM の関連でニューヨーク市立大学のバリ・ブルック氏 IAML 創設者のフェドロフ氏 (1979 年逝去)、大英図書館音楽部長のキング氏からも声援をいただいた。

日本支部は支部長遠山一行先生、事務局長村井範子、会計渡部恵一郎氏 (桐朋学園大学) と数名の役員からなる構成で設立された。私は日本よりの代表として会議の Council meeting や分科会に参加し、支部の報告を行うとともに会費の送金も処理した。Council meeting の参加に当たり、ユネスコ傘下の IMC (International Music Council) の日本支部を担当していた作曲家・外交官の戸田邦雄先生から会議参加旅費の支出について配慮していただいた。

【ライブラリアンの違い】

ところで、日本と外国ではライブラリアンの地位に違いがあることに驚いた。ハンガリー大会でお会いしたシュツットガルト図書館学校学長のクリューガー氏の誘いで同校を訪問したが、入学時には博士号をもつ人がほとんどであり、3 年間の図書館学の教育を受け、資格をとるとプロフェッサーと同じ扱いを受けるとのこと。また、そのような機関はドイツに数校あり、試験は非常に難しく、合格者は 10 人に 1 人とのことである。図書館員の資格が非常に高い。当時、東ヨーロッパでは博士号を持たないと会議出席のため出国できなかった。例えば、ハンガリーのヤーノシュ・カルパッチー氏はリスト音楽院の音楽学の教授で博士号をもち、図書館長でライブラリアンであった。

【IAML の大会・分科会】

IAML の大会では新しい出版物をすべて展示するので大変参考になり、また、出版社の社長も参加している。つまり、音楽の資料と情報についての関係者が集まっているのである。

IAML は、国際音楽学会に呼応して設立され、音楽研究資料についての多様な情報交換が行われる会である。そして特定領域を検討するために RILM, RISM, RiDiM, 音楽学校機関等の様々な分科会がある。印象に残った分科会のひとつに Public Library の分科会がある。オランダの図書館員が、ブレユが発明した点字がまず楽譜に適用され、視覚障害者に役立ったという発表をした。公共図書館の音楽資料や研究が充実していることにも驚いた。

1978 年のリスボン大会の Council meeting で日本支部創設の予告を私は行った。そのときの会場はグルベンキアン財団の国際会議場であった。ポルトガルは経済豊ではない国で音楽学校や教会では楽器、楽譜が未整理のままであったが、グルベンキアン財団だけは素晴らしく垢抜けた所であった。グルベンキアンは、アルメニア人の利他主義者で、石油の利権を持ち、ロンドンやパリの音楽活動に多大な援助をしていた。

【まとめ】

IAML には音楽文化という広い領域で人々の役に立ち、人々に手を差し伸べるという精神がある。会議中の分科会などでのつたない発表も心暖かく接してもらえる。また、会議開催地では伝統ある出版社や修道院、音楽院などの見学プログラムや特色ある演奏会も用意され、常に音楽資料への関心を深めることに配慮されている。日本支部の次世代、その次の世代のメンバーがつぎつぎと育って、是非 IAML の大会に多く参加していただきたい。音楽図書館員の教育や地位など色々問題はあがあるが、日本支部の活動が発展し、次の 30 年に IAML の国際的活動に日本からより大きな貢献ができることを願っている。

2. 井上公子会員（前九州大学）

私は村井〔範子〕先生のお誘いで IAML 日本支部に加入した。当時、博多にある九州芸術工科大学（現在、九州大学に統合）に勤務していたが、創立当初で図書館の資料は少ないし、音楽資料にいたってはほとんどなく、自分の研究費で購入しなければならぬ状態だった。

IAML の国際会議には 1983 年のワシントン大会から参加した。大会に参加して驚いたことは、文化の違い、図書館や音楽資料の充実であった。音楽関係の資料がほとんどないところで音楽史、音楽理論を教えるギャップを改善するため、自然と IAML の国際会議に自然と毎年出席するようになった。IAML の大会への参加は、遊びも兼ねてヨーロッパの音楽文化に触れ、日本で仕事をするエネルギーを持って帰るようなものとなった。



ワシントン大会では、現代音楽に関心があったので MIC (Music Information Center) のセッションに参加したかったが、コンタクトをとったところ MIC の場合は参加者のほとんどが作曲家のようで日本の作曲家の作品や音源を持ってきたほしいとの連絡があった。困りかねていたところに、ドイツのフェリンガーさんから Bibliography Session への参加のお誘いがあった。

Bibliography Session は研究発表と参加者のみのクローズド・セッションから構成され、毎回 20 人程度の参加者があった。色々な資料が提示されて非常に良かったと感じている。1989 年の東京大会の Bibliographic Session では、東京芸術大学の森節子さんが

日本における西洋音楽雑誌について発表されたと聞いている。その後 2、3 年経ってフェリンガーさんから依頼があり、音楽図書館協議会で編集した『逐次刊行物所在目録』に基づき、東京の図書館で調査し、日本の音楽雑誌について発表したことがある。全体として興味深かったのは、西洋諸国は音楽や音楽雑誌で日本よりもずっと進んでいると思っていたが、デンマーク、スウェーデン、スイスなどは比較的音楽雑誌の発行は後で部数や関心を持つ人が少ないことである。Bibliographic Session への参加を続けていたが、2000 年に IAML の方針が変わり、毎年 2 回の会合を 1 回とするように指示が出て、フェリンガーさんはいたく落胆されていた。フェリンガーさんとは個人的にも親しくさせていただき、住んでいたミュンヘンにお邪魔し色々お話を伺っていたが、その年の暮れに訃報を聞いた。そして Bibliographic Session も終了となった。

その後は、定年で東京に戻り、自由な身分なので IAML に毎年参加している。IAML の大会に楽しく参加できた理由は、1 週間の会議の中で、クラシック音楽ではなく、開催国で流行している音楽の音楽会が 2 回あり、開催国の人々や文化に触れられる遠足等の行事が充実していたからであろう。

3 松下鈞会員（帝京大学総合教育センター）

IAML 日本支部の設立の集まりは、1979 年 6 月 9 日（土）に国際文化会館で開催された。その集まりには首都圏から 39 名が参加し、うち 17 名は現役の図書館員であった。設立当初の会の日本語の名称は「国際音楽文献学





会」であった。International Association of Music Libraries がなぜそのような日本語名になったかという点、日本と諸外国では図書館員のレベルが違い、図書館のイメージも少し違うので会の趣旨について誤解を招かないようにあえて図書館という用語を使わなかったからである。

当時、私は国立音楽大学附属図書館の主任司書と 1971 年設立の音楽図書館協議会 (MLAJ) の事務局長をしていた。当時の MLAJ は『逐次刊行物所在目録』と『オペラ全曲版所在目録所在目録』の作成やレファレンスツールの所在目録を調査していてモチベーションが上がっていた時期であった。図書館員の取り合いにならないように MLAJ と IAML 日本支部との棲み分けについて遠山音楽図書館に関係者が集まり、協議した。そこで MLAJ は機関団体の組織、IAML は個人の組織という明確な線引きがなされた。従って IAML 日本支部の創設会員 39 名はすべて個人会員であった。

その後、会の名称は現在の「国際音楽資料情報協会」となった。それには上野学園大学音楽資料室の福島〔和夫〕先生が密接に関わっている。1988 年の IAML 東京大会を機会に色々なことが議論されたが、福島先生から「文献協会」という名称はおかしいのではないかという問題提起があった。東京文化会館の館長室に役員が頻繁に集まり、名称の問題を議論した。その際に図書館という名称の使用も検討された。結局、本会は文献だけでは

なく音楽資料情報も扱うべきだとの福島先生の強い主張が採択された。IAML そのものについていうと、メディアの発達とともに music libraries から archives and documentation centres に変わり、同時にその中から IMC や IASA が別の団体として派生していったという経緯がある。library という概念に含まれる内容をどのように表現するかが国際的にも日本でも問題となり、名称をあえて変えざるを得なかったという事情があると思われる。

設立時は 39 名のうち 17 名は図書館員であったが、時間の経過とともに図書館員の会員が少なくなった。一方、創設時には東京音楽大学の秋山龍英先生、武蔵野音楽大学の古荘先生、フェリス学院大学の佐藤馨先生等の館長も加わっていたが、お亡くなりになられた。日本支部の会員は、今はどちらかというと研究者が多くなった。IAML の毎年の会議で話されるテーマが音楽学者にとって魅力的なテーマだったということもあると思う。



司会：加藤信哉
(かとう しんや・
東北大学附属図書館)

2009 年総会報告

日時 : 2009 年 6 月 7 日 (日) 13 時 ~14 時 50 分
場所 : 東京文化会館 4F 中会議室 (1)

出席者 : 荒川恒子、井上公子、加藤信哉、金澤正剛、末永理恵子、住川頼子、関根和江、関根敏子、高橋美都、藤堂雍子、長谷川由美子、樋口隆一、平岩寧、森佳子、山田晴通、松下鈞

委任状提出者 : 石田康博、伊藤真理、稲葉良太、植田栄子、小倉洋子、加藤修子、金井喜一郎、加納マリ、刈屋公延、菊池修、佐々木勉、佐藤みどり、上法茂、杉本ゆり、土田英三郎、手代木俊一、寺本まり子、遠山一行、星野宏美、向井大策、村井範子、米田かおり、劉薇、林淑姫、エリザベト音楽大学附属図書館、大阪音楽大学音楽博物館、大阪芸術大学図書館、国立音楽大学附属図書館、昭和音楽大学附属図書館、同志社女子大学図書・情報センター、桐朋学園大学音楽学部附属図書館、同朋学園大学附属図書館、日本近代音楽館、フェリス学院大学附属図書館、民音音楽博物館、武蔵野音楽大学図書館

出席者 16 人 + 委任状 36 通で総会成立 (会員総数: 個人会員 62 団体会員 17 の過半数)

開会の辞 : 金澤正剛支部長

議長選出 : 荒川恒子

I. 報告事項

1) 2008 年度活動報告 (資料 1 参照)

2) 2008 年度会計報告 (資料 2 参照) と監査報告

2008 年度活動報告並びに 2008 年度会計報告と監査報告について報告があり、承認した。

3) 会員の異動

前回の総会以降の会員の異動について次のとおり報告があった。

退会—西原稔氏、鶴園紫磯子氏

入会—稲葉良太氏、劉薇氏、向井大策氏

II. 協議事項

1) 日本支部創立 30 周年事業について

「次世代音楽ライブラリアン育成プロジェクト」について次のような提案があった。

音楽図書館と音楽図書館員を取り巻く環境が変化しており、次世代音楽ライブラリアンが備えるべきコンピテンシーを提示する必要がある。

このため IAML 日本支部の 30 周年記念事業として次世代音楽ライブラリアン育成プロジェクトを実施したい。事業は複数年にわたり、図書館学教育、音楽学教育、音楽図書館管理職従事者及び研修企画の実績ある者によるタスクフォース体制で実施

し、海外調査、関連団体とのラウンドテーブル開催、報告書作成、育成プログラム策定および提言などをその内容とする。財源については一部 IAML 日本支部から支出するが、主に科学研究費補助金等の外部資金を当てることを前提としている。

協議の結果、次世代音楽ライブラリアン育成プロジェクトについての提案の趣旨を承認した。なお、役員会で事業内容と事業規模などについて費用の裏付けを含め、現実的な案を検討し、その上でさらに協議することとした。

2) フレンズ (仮称) の枠組みの新設について

フレンズ (仮称) の枠組みの新設について次のような提案があった。若手の音楽図書館員が IAML 日本支部会員に少ないので、主に国内で活動を行い、経費負担も少ない「フレンズ (仮称)」を設けることにより若手の音楽図書館員の勧誘を図りたい。このためには IAML 日本支部の規約改正が必要となる。しかし本総会の 6 週間前に会員に対し「規約改正」としての提案はされていないので今回は意見を伺うことになる。

意見交換の結果、IAML 日本支部の活動をアトラクティブにして、若い人の参加を促すという方向性を了解した。今後は、多くの人が例会等に気楽に参加できる機会を増やすなど、敷居の低い具体的活動を先行させ、実際の活動を進めていく中で規約の整備について検討することとした。

3) 2009 年度活動計画案 (資料 1 参照)

2009 年度活動計画案を承認した。なお、日本音楽学会「日本の音楽資料」調査委員会への委員として岸本宏子氏、寺本まり子氏を推薦したとの報告があった。

4) 2009 年度予算案 (資料 3 参照)

2009 年度予算案を承認した。なお、30 周年記念事業費については記念事業の具体化の見直しの中で、柔軟に取り扱うこととした。

5) IAML/AMS2009Amsterdam 会議の代表参加者

IAML/AMS2009Amsterdam 会議の代表参加者を金澤支部長に決定した。ただし、支部長の出席が不可能なミーティングには、藤堂副支部長が出席することとした。

閉会の辞 : 藤堂副支部長

2008 年度活動報告と 2009 年活動計画案及び中間報告

	2008 年度活動報告	2009 年活動計画案及び中間報告
国際会議	ナポリ会議 2008 年 7 月 20 日 -25 日 出席者： 荒川恒子、藤堂雍子、伊藤真理、関根和江、樋口隆一、森佳子、山田高誌 代表出席者：藤堂雍子 発表者： 藤堂雍子（支部報告） 山田高誌（プログラム委員会：世界のイタリア 18 世紀マニュスクリプト：国立音大所蔵のナポリ版 Il Matrimonio segreto 新発見） 伊藤真理（公共図書館部会、ビジネスミーティング：音楽図書館情報学のための研修プログラム構築について） 「Newsletter no.34」参照	アムルテルダム会議 2009 年 7 月 5 日 -10 日） 出席予定者： 井上公子、金澤正剛、関根和江、藤堂雍子、樋口隆一、山田高誌〔実際には不参加〕、劉薇 代表出席者： 金澤正剛 発表者： 金澤正剛（支部報告） 樋口隆一（図書館とコレクション：Mozarts Skizzenblatt in Tokio: Eine Fundgrube zur Schaffensperiode nach seiner ersten Prager Reise 1787)
総会	2008 年 5 月 24 日（土） 会場：東京芸術劇場小会議室 内容：2007 年度活動報告、2007 年度決算報告及び会計監査報告、2008 年度活動計画、2008 年度予算、選挙結果報告など 「Newsletter no.33」参照	2009 年 6 月 7 日（日） 会場：東京文化会館中会議室（1） 内容：2008 年度活動報告、2008 年度決算報告及び会計監査報告、IAML 日本支部創立 30 周年記念事業、フレンズの枠組みの新設、2009 年度活動計画案、2009 年度予算案など
役員会	4 月 16 日（土）（東京文化会館） 前年度役員会 5 月 24 日（土）（東京芸術劇場小会議室） 役員業務分担を確認、・次回役員会日程確認 6 月 14 日（土）（東京文化会館） 2008 年度活動計画の具体化について、IAML2008Naples における支部報告は藤堂副支部長に決定 8 月 9 日（土）（東京文化会館） IAML2008Naples 出席報告、研究例会（44 回）の開催について、国内会員の枠組みの新設について、事務局の設置場所の明記について 10 月 18 日（東京文化会館） 「役員会議事録確認手続きに関する申し合わせ」を決定、例会の開催について、規約上の支部所在地について、国内会員の位置づけについて	1 月 31 日（土）（東京文化会館） 日本音楽学会「日本の音楽資料」調査委員会への委員推薦について、2009 年度活動計画案について (1)、日本支部創立 30 周年記念事業について、IAML 日本支部の財政・会計問題について 3 月 21 日（土）（東京文化会館） 30 周年記念事業（次世代音楽ライブラリアン育成プロジェクト）について、第 45 回研究例会について、会費値上げ問題について、総会における協議事項について 5 月 16 日（土）（東京文化会館） IAML 日本支部創立 30 周年記念事業について、「国内会員（フレンズ）（仮称）の枠組みの新設について」について、総会における協議事項（3）「決算書及び予算案」について、2008 年度活動報告及び 2009 年度活動計画及び中間報告（案）について、代表参加者について ML による稟議 日本音楽学会「日本の音楽資料」調査委員会への委員推薦に関する正式回答について

研究例会	第 44 回 5 月 24 日(東京芸術劇場小会議室) 「日本支部の課題」 企画について(荒川恒子) RISM の状況(樋口隆一) RISM in Japan??(長谷川由美子) 音楽図書館員教育の現状と課題(伊藤真理) なお、以下の報告が書面または口頭により追加された。 シンポジウム「日本の音楽資料・情報を考える」 その後(林淑姫) 慶應義塾大学 DMC 機構における音楽資料のデジタル化研究の状況(報告)(美山良夫, 篠田大基) 転換期を迎えた音楽資料の目録作成とそのシステム(加藤信哉) 「Newsletter no.33」参照 第 45 回 12 月 9 日(水)(慶應義塾大学三田東館) 「南葵音楽文庫貴重資料デジタル化」 主催:慶應義塾大学 DMC 機構 協力:読売日本交響楽団・IAML 日本支部 プロジェクトの概要(美山良夫) 南葵音楽文庫貴重資料デジタル化の意義(伊藤真理) デジタル化画像デモンストレーション(篠田大基) 「Newsletter no.35」参照	第 46 回 6 月 7 日(東京文化会館中会議室) 「IAML 日本支部の過去・現在・未来」 司会:加藤信哉 談話者:村井範子、井上公子、松下鈞 第 47 回 未定 [総会終了後に決定し、11 月 11 日に開催。内容は本号 p.10 に掲載]
NEWSLETTER	No.33 :「IAML 支部総会 2008 及び第 44 回研究例会」 No.34 :「IAML2008Naples」	No.35 :「第 45 回研究例会 <南葵音楽文庫貴重資料デジタル化>」 No.36:「IAML 支部総会 2009 及び第 46 回研究例会」(予定) No.37:「IAML/AMS2009Amsterdam」(予定) No.38 :(未定)
Home Page	更新(3 回) 最新ニュース、ニューズレター no.33,34 掲載、新規追加・修正内容: Fontes Artis Musicae 目次情報の日本語訳掲載(作業中)、HP に掲載済みのニューズレター内に記載された個人情報の削除、「寄贈資料」のコーナを追加(2007 年～2008 年分を掲載)	更新(現時点で 4 回更新済) 最新ニュース、ニューズレターの掲載 IAML 東京会議 1988 の写真掲載
その他	支部役員会のメーリングリスト開設 支部役員会議事録確定手続きに関する申し合わせの決定 支部事務局の所在地に関する役員会申し合わせの決定 JLA「図書館年鑑」への寄稿 ほか	日本音楽学会「日本の音楽資料」調査委員会に岸本宏子、寺本まり子両会員を委員として推薦(2009.2.3) Fontes Artis Musicae「Western Music in Asia」に日本の項目執筆(金澤正剛・藤堂雍子) 日本支部創立 30 周年記念事業(予定) 同 記念事業(IAML 東京会議 1988 の写真を HP にアップ) 日本支部会員専用メーリングリストの開設(予定) 新規加入促進(予定) 日本支部パンフレットの作成(予定) JLA「図書館年鑑」への寄稿(予定) ほか



おしらせ



■ IAML 東京会議の写真を WEB にて公開

IAML 日本支部創立 30 周年記念を記念し、東京会議の時に撮影された写真をデジタイズして、IAML のホームページから閲覧できるようにしました。以下は、この件を推進された藤堂副支部長からのコメントです。

IAML 東京会議は 1988 年でした。それは、日本支部設立 9 年目の 9 月初旬でした。

あれから 20 年余り、IAML 日本支部は、今年 IAML 日本支部は、30 周年記念年を迎えます。当時のアルバムを開いて、お目にかけます。

<http://www.iaml.jp/tokyomeeting.html>

写真のキャプションに「-」とのみ書かれている方のお名前をご存じでしたら、写真の番号と一緒にお知らせ下さい。

藤堂雍子

アルバムの見方：上記の URL で、「フォトギャラリー」をクリックするとアルバムが開きます。表示されている写真の中心付近でマウスをクリックするとキャプションが On/Off できます。また、マウスを少し動かすと上部にメニューが現れますので、右上の「Show info」を選んでも、キャプションが表示できます。

■会計より ～会費納入のお願い～

会費未納の方は、ゆうちょ銀行または三菱東京UFJ 銀行よりご送金ください。

●年会費 個人 6,000 円 団体 14,000 円

●振込先

ゆうちょ銀行 00130-5-75629 IAML 日本支部

三菱東京 UFJ 銀行 六本木支店

普通 1089206 IAML 日本支部 (イアムにホジブ)

代表 森佳子

連絡先の変更も併せてお知らせください。

IAML 日本支部会計係 森佳子

■ 2009 年度秋の研究例会

音楽図書館協議会との共催で第 47 回例会が下記のとおり行われました。

テーマは外部委託（アウトソーシング）によって急激に変わりつつある図書館サービスに関するもので、外部委託が図書館業務やサービスに与える影響や問題点を利用者、現場の職員、管理者、業務委託者（アウトソーサー）それぞれの立場から講演、事例報告などが行われました。

日時：2009 年 11 月 11 日（水）

13:00 ～ 17:00

場所：パシフィコ横浜

会議センター 2F 211 + 212 会議室

テーマ：音楽図書館業務の外部委託—現状と課題—

内容：

講演

1. アウトソーサーから見た音楽図書館

2. 音楽資料データ作成業者からみた図書館 鳥海恵司氏（株式会社トッカータ）Toccata 新典拠システムのデモあり

3. 利用者から見た音楽図書館

同志社女子大学図書館ほか加盟館からの事例報告、アンケート結果報告

詳しいレポートはニューズレター第 38 号に掲載予定です。

==== Postscript =====

去る 6 月 7 日に行われた研究例会と総会の報告を掲載しました。編集の都合で、37 号と発行日が接近しております。ニュース等は 37 号の方もご覧ください。（末永）

Newsletter — 国際音楽資料情報協会日本支部
第 36 号

2009 年 11 月 20 日発行

発行 国際音楽資料情報協会 (IAML) 日本支部

〒106-0041 東京都港区麻布台 1-8-14

日本近代音楽館気付

<http://www.iaml.jp>